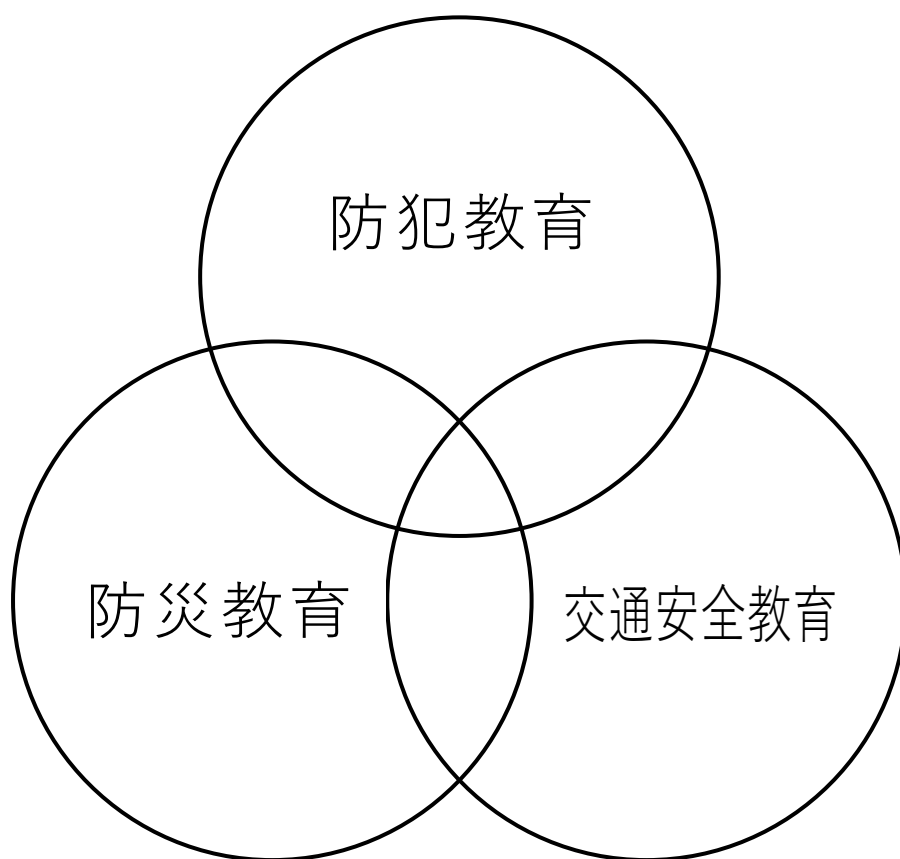


北海道実践的安全教育モデル構築事業

安全教育モデル

～学校における安全教育・安全管理の充実に向けて～



北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課

令和8年（2026年）2月

はじめに

児童生徒が生き生きと活動し、安心して学べるようにするためには、児童生徒の安全の確保が保障されることが不可欠です。

しかしながら、昨年7月のカムチャツカ半島付近での地震に伴う津波警報をはじめ、豪雨による自然災害、犯罪被害や交通事故の発生など、児童生徒の安全を脅かす様々な事案が全国で相次いで起きています。

こうした中、国が令和4年3月に策定した「第3次学校安全の推進に関する計画」では、学校安全を推進する方策として、「学校安全に関する組織的取組の推進」、「家庭、地域、関係機関等との連携・協働による学校安全の推進」等を設定し、学校安全に関する具体的な取組の推進と学校安全に関する社会全体の意識向上を図り、児童生徒等に、自ら適切に判断し、主体的に行動できる資質・能力を育成することなどが示されています。

北海道教育委員会では、本年度、様似町教育委員会、利尻町教育委員会、苫前町教育委員会と連携し、防犯教育、交通安全教育及び防災教育に関する「北海道実践的安全教育モデル構築事業」に取り組み、様似町における地域一体で作成した安全マップの有効活用の取組、利尻町における子ども目線での通学路の危険箇所点検の取組、苫前町における創作活動や体験活動を取り入れた実践的な防災教育の取組など、各地域の優れた実践の成果を本稿に取りまとめました。

各学校、市町村教育委員会におきましては、本事業の成果を積極的に活用し、地域・関係機関等と一体となって児童生徒の安全・安心を確保する取組を推進し、学校における安全教育・安全管理の一層の充実を図るようお願いいたします。

結びになりますが、安全・安心な学校づくりのため、安全教育モデル構築にご尽力いただきました、様似町、利尻町、苫前町、学校安全アドバイザー及び推進委員会構成員等の関係者の皆様に、心からお礼を申し上げます。

令和8年（2026年）2月

北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課長 森田靖史

< 安全教育モデル事例 目次 >

はじめに

目次

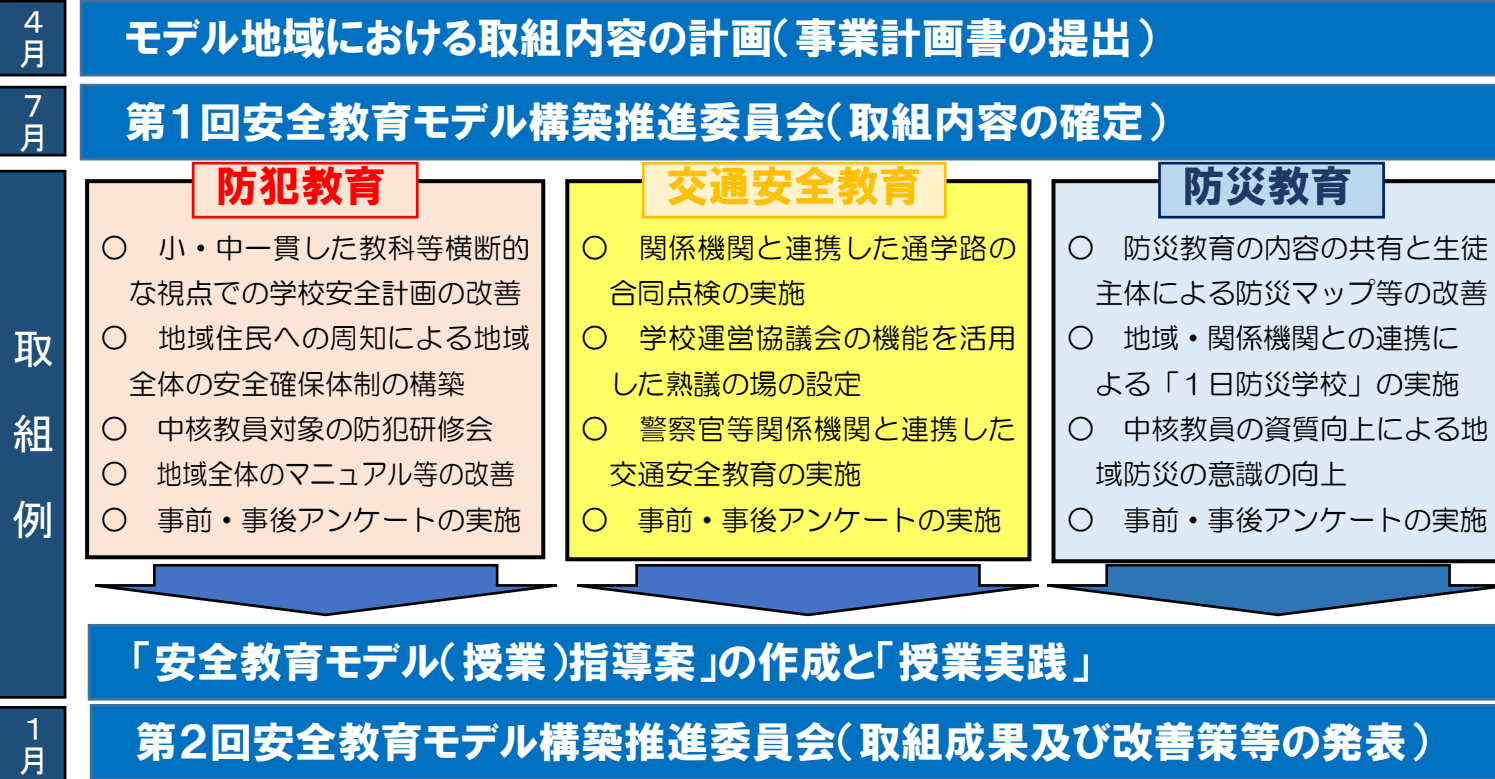
事業の概要	・・・	1
◆ 防犯教育		
実践的安全教育モデル ～様似町の取組～	・・・	3
◆ 交通安全教育		
実践的安全教育モデル ～利尻町の取組～	・・・	9
◆ 防災教育		
実践的安全教育モデル ～苫前町の取組～	・・・	18
■ 講評		・・・ 26
【防犯教育】		
学校安全アドバイザー		
株式会社まちづくり計画設計 取締役	松村 博文 氏	
【交通安全教育】		
学校安全アドバイザー		
北海道道路管理技術センター 顧問	萩原 亨 氏	
【防災教育】		
学校安全アドバイザー		
北海道教育大学釧路校 教授	境 智洋 氏	
気象庁旭川地方気象台 地震津波防災官	佐藤 悦信 氏	
令和7年度北海道実践的安全教育モデル構築推進委員会名簿	・・・	30

令和7年度「北海道実践的安全教育モデル構築事業」(文部科学省委託事業)

目的

防災教育、交通安全教育及び防犯教育等について、指導方法や教育手法の開発・普及、通学時を含めた学校における児童生徒等の安全確保体制の構築・普及及び専門家による指導・助言等を受ける取組を実施し、「北海道実践的安全教育モデル」を構築して、全道に普及させ、学校における安全教育・安全管理の一層の充実を図る。

取組の流れ



モデル地域への支援

本庁

事業の全体構想及び成果の普及(訪問～原則2回)

教育局

事業内容の整理及び進捗状況の管理(訪問～モデル地域と協議し、数回)

アドバイザー

事業の取組向上のための支援(訪問～モデル地域と協議し、数回)

効果

- 地域における安全教育に関するネットワークの構築又は既存のネットワークの活用・活性化
- 各学校における「危機管理マニュアル」・「学校安全計画」・「安全マップ」等の見直し・充実
- 専門的な指導助言を踏まえた安全教育・安全管理体制の充実と徹底(安全教育の教育課程への位置付け)

ゴール

安全教育モデルの全道への普及及び児童生徒の命を守り抜くための体制の構築

防犯教育
(様似町)

交通安全教育
(利尻町)

防災教育
(苫前町)

令和7年(2025年)7月2日

第1回北海道実践的安全教育モデル構築推進委員会

■ 様似町実践委員会
令和7年7月10日

■ アンケート実施
令和7年7月上旬

■ 防犯訓練
令和7年7月25日
・ 様似小・中学校教職員

■ 防犯教室
令和7年8月19日
・ 様似小・中学校全学年
・ 特別活動「防犯教室」

■ 学校運営協議会
令和7年9月30日

■ 様似町実践委員会
令和7年11月25日

■ 学校運営協議会
令和7年12月3日

■ 事後アンケート実施
令和7年12月上旬

■ 利尻町実践委員会
令和7年9月30日

■ アンケート実施
令和7年10月中旬

■ 通学路交通安全点検
令和7年10月15日

■ 交通安全大会
令和7年10月16日

■ 実践授業
令和7年11月18日
・ 杓形小学校3年
・ 社会科「地域のためにできること」
■ 中核教員及び警察との検討会

■ アンケート実施
令和7年11月下旬

■ 利尻町実践委員会
令和7年11月28日

■ 苫前町実践委員会
令和7年8月27日

■ アンケート実施
令和7年10月下旬

■ 先進的実践校視察
令和7年10月28日
・ 浜中町立霧多布中学校
・ 浜中町役場

■ 実践授業
令和7年11月17~19日
・ 苫前中学校全学年
・ 理科
「避難経路を考えて安全に避難するには」①

■ 実践授業
令和7年11月20日
・ 苫前中学校全学年
・ 苫前小学校高学年
・ 特別活動
「避難経路を考えて安全に避難するには」②
(1日防災学校)

■ アンケート実施
令和7年11月下旬

■ 苫前町実践委員会
令和7年12月19日

令和8年(2026年)1月13日

第2回北海道実践的安全教育モデル構築推進委員会

■ 様似町実践委員会
令和8年1月26日

■ 利尻町実践委員会
令和8年2月3日

■ 苫前町実践委員会
令和8年2月19日

防犯教育

～ モデル地域 様子町 ～

1 実践的安全教育モデル（防犯教育）

(1) モデル地域について

様似町は、平成 28 年度から施設分離型小中一貫教育を実施し、地域に根差し、開かれた教育活動を推進してきた。また、幼児教育センターと小・中学校で一つの学校運営協議会を設置し、例年、学校運営協議会推進事業としてあいさつ・見守り活動を実施してきたが、小・中学校が一貫した防犯教育を行うことに課題がみられる。

今年度は、校種間及び地域との連携を通して、児童生徒が緊急時において、自己の防犯意識を高くもち、冷静に思考・判断し適切に行動選択できる対応力を身に付けさせるために合同の防犯教室を行うとともに、地域全体での安全確保体制に向け、安全マップの作成を行った。

これまでの取組を踏まえ、3つのポイントを次のとおり示す。

(2) 実践的安全教育モデルのポイント

【モデルPOINT①】指導方法や教育手法の開発・普及

○防犯教室に向けた小・中教員による合同防犯訓練の実施

モデル地域の取組 ～教員の防犯意識の向上と正しい知識を身に付ける取組

様似小・中学校では、教員の防犯意識を高め、正しい知識をもって指導できるよう、児童生徒へ防犯教室を行う前に、小・中学校教員合同防犯訓練を実施した。

実施に当たっては、警察署との連携を行うとともに、防犯関係の課題研究をしている近隣の高校生に「防犯ブザーの有効性」の研究発表を依頼した。

警察署員から、学校で起こる不審者事件と対策について、さすまたの使い方や不審者が校内に侵入した際の対応についての講話と実技訓練を受けた。実技訓練では、危機管理マニュアルに沿って対応を確認することによって、既存マニュアルの不備や改善点を発見することができた。



【高校生による課題研究発表】



【不審者対応訓練】

【モデルPOINT②】地域の連携による安全確保体制の構築

○学校内外の危機を想定した小・中合同防犯教室の実施

モデル地域の取組 ～学校内外における不審者対応の取組

小・中学校の全学年児童生徒が集まり、防犯教室を開催した。警察署員から、不審者に遭遇した際の対応についての説明と街に潜む危険な場所を探す演習を行った。児童生徒を、住んでいる地域ごとのグループに分け、「こども110番の家探し」を行い、地域の地図や写真を基に、こども110番の家がどこにあるのかを確認した。学校に不審者が侵入したことを想定し、児童生徒の避難、玄関での対応等、事前の防犯訓練を生かした実践的訓練を行い、アドバイザーからの助言をいただいた。



【警察官の講話】



【こども110番の家探し】

【モデルPOINT③】学校間で連携した取組の推進

○地域と連携した安全マップの作成

モデル地域の取組 ～地域の防犯意識を高める取組

学校運営協議会、町民熟議で地域の方とともに防犯教育について考える時間を設けた。町民熟議の参加者に向けて、教員の防犯訓練及び児童生徒の防犯教室について報告をするとともに、学校運営協議会の委員である高校生も町民熟議に参加し、各地域に分かれて安全マップ作成に取り組んだ。

町のほぼ全域をカバーする安全マップが完成するとともに、地域の危険な場所等の情報を共有し、参加者の防犯意識を高めることができた。



【防犯訓練・防犯教室の報告】



【安全マップづくり】

2 実践を振り返って

実践を通して、次の成果及び課題が明らかになった。

(1) 防犯教室に向けた小・中教員による合同防犯訓練の実施

【成果】

- ・児童生徒に防犯教室で指導する前に教員の訓練を行ったことで、より高度な防犯知識を教員が身に付けることができた。
- ・まずは教員がしっかりとした防犯意識をもつことで、児童生徒への指導が確固たるものとなった。

【課題】

- ・インターネットや SNS といった、新たな危機事象への対応が必要である。

(2) 学校内外の危機を想定した小・中合同防犯教室の実施

【成果】

- ・小・中の教員に、より強い連帯感が生まれた。
- ・こども 110 番の家の役割やどこにあるかを確認することができた。

【課題】

- ・放課後等に被害に遭う恐れがあるため、居住地区以外のこども 110 番の家も把握させる必要がある。

(3) 地域と連携した安全マップの作成

【成果】

- ・学区（町全体）のほぼ全域をカバーする安全マップが完成した。
- ・地域の危険な場所等の情報を共有し、参加者の防犯意識を高めることができた。

【課題】

- ・完成したマップを今後情報更新しつつ、活用方法等を工夫していく必要がある。

(4) 今後の取組について

- ・作成した安全マップを、保護者や地域へ配布する。
- ・学校運営協議会で、Google マイマップを活用した安全マップの活用について、検討する。
- ・インターネットや SNS といった、新たな危機事象への対応について、教員が正しい知識を身に付けるとともに、児童生徒へどのような指導を行ったらよいか、検討していく必要がある。

防犯訓練の流れ

進行・・・教頭

- 10:00～
- 1 警察の方と浦河高校の生徒さんの紹介
 - 2 【講話・実技】
 - (1)防犯ブザーの有効性について(浦河高校生)
 - (2)学校で起こる不審者事件と対策について (警察)
 - ①さすまたの使い方・手を捕まれたときの外し方等
 - ②実際にグループを作って互いにやってみる。
 - ③不審者が校内に入ってきたときの対応について
何を優先にするか。
動線や連絡調整の仕方
児童生徒の逃がし方・守り方
- 10:25～
- 3 【訓練①】 玄関に不審者が入ってきた場合の対応について
※危機管理マニュアルに沿って実施
職員玄関から不審者が入ってくる。
職員室にいる教員が、校内の侵入を防ぐ
万が一、校内に入ってきたら校長室に誘導する。等
 - (1)小学校教員の实地訓練
 - (2)中学校教員の实地訓練
- 10:50～
- 4 【訓練②】 学校内に不審者が入ってきた場合の対応について
※教室から児童生徒を避難させる訓練
教室に突然入ってくる。
担任と近隣の教室教師との連携について
 - (1) 小学校教員の实地訓練
 - (2) 中学校教員の实地訓練
- 11:20～
- 5 【講評】 实地訓練全体を通して振り返り (警察)
- 11:25～
- 6 【防犯教室に向けて】
※児童生徒を先に避難させるか教師の動きについて確認
※教師の配置を確認
- 11:30 終了

防犯教室の流れ

進行・・・生徒指導部

1 3 : 2 0

体育館集合

1 3 : 2 2

1 はじめの言葉

校長先生から(小学校)

警察の方紹介

1 3 : 2 5

2 不審者にてであったときの対応について

※「いかののおすし」の説明(警察)

※子ども110番の家の説明(生徒指導部)

【近くに110番の家があったときのことを想定・・・小学生】

・小学生が3人で歩いていたとき(自分の判断で動く)

・警察の方から講評

【不審者に手を握られたときの対応について・・・中学生】

① 警察の方から説明

② 中学生3人が行う。

・教員が手をつかむ→中学生が手を返す

※警察の方から説明等

1 3 : 4 5

3 110番の家探し・防犯訓練

・110番の家の説明

・防犯訓練の説明

※逃げるときの「合い言葉」と逃げ方について説明(生徒指導部)

(1) 児童生徒は各教室に移動(別紙)

(2) 地図を見て、子ども110番の家を確認する。

※110番の家のリストをグループに配付

※地図に110番の家の写真を貼っておく

※各グループに担当教員がつく。

1 4 : 0 0

4 不審者が学校に入ってきた場合の訓練

(1) 玄関で教員が対応する。

(2) 放送を流す「大きな荷物が児童玄関に届きました。

体育館に移動してください。」

(3) 児童生徒が各教室から体育館に避難する

1 4 : 2 5

5 防犯アドバイザーから

校長先生から(中学校)

1 4 : 3 0

終わりの言葉

※各校で振り返り(反省)

交通安全教育

～ モデル地域 利尻町 ～

1 実践的安全教育モデル（交通安全教育）

(1) モデル地域について

登下校中に児童生徒が巻き込まれる痛ましい交通事故が全国的に発生している中、利尻町では例年実施している通学路の合同点検に加え、更なる安全対策と安全教育を推進することが喫緊の課題となっている。

また、拠点校では、道道・町道のほか、スクールバスを利用する児童も増えており、乗車前、降車後の安全教育の推進も課題である。

こうした状況を踏まえ、モデル地域の各校においては「通学路合同点検」を実施し、「利尻町通学路交通安全プログラム」を基にしながら、各学校において年度当初の4月に児童生徒への交通安全の推進に取り組んできた。

令和7年度は、地元駐在所が外部講師として参加する「通学路安全教育推進会議」及び町内3校の学校運営協議会において、通学路の安全性について熟議し、検討内容を踏まえた通学路合同点検を実施することで、より充実した交通安全プログラムの作成に取り組むとともに、児童生徒だけではなく、町民・観光客への普及啓発についても取組を行った。

これまでの取組を踏まえ、3つのポイントを次のとおり示す。

(2) 実践的安全教育モデルのポイント

【モデルPOINT①】指導方法や教育手法の開発・普及

○通学路の危険箇所を子ども目線でつくりあげる授業づくり

モデル地域の取組 ～児童と大人が目線の比較による気づきを促す授業

拠点校の利尻町立沓形小学校では、第3学年の社会科「地域のためにできること」の単元で、児童が通学路の危険箇所について、自分たちで歩き、児童の目線からタブレット上に危険箇所をマッピングする活動を行った。児童は、自分たちが作成したマップと、大人が合同点検で指摘した場所の共通点や違いを比較した。また、授業は、協力校及び警察等に公開した。

授業前後にアンケートを実施し、児童へ交通安全に対する意識及び変容について把握した。



【危険箇所を探す様子】



【作成したマップを比較する様子】

【モデルPOINT②】地域の連携による安全確保体制の構築

○プログラムの改定に向けた学校・保護者・地域・行政の連携

モデル地域の取組 ～既存組織を活用した通学路の点検と熟議

実践委員会では、学校別に分かれ通学路の安全に関する熟議を行い、既存の危険箇所の改善策の検討や新たな危険箇所の点検を行った。

例年行われている警察、道道・町道の道路管理者、学校、交通安全指導員、町、教育委員会による「通学路における交通安全の確保に向けた合同点検」では、先に行われた実践委員会で指摘した追加箇所も含め、現地点検及び対策の検討を行い、実践委員会に報告した。意見を基に、「通学路交通安全プログラム」の改定を行った。



【実践委員会の様子】



【通学の合同点検の様子】

【モデルPOINT③】学校間で連携した取組の推進

○持続可能な拠点校と協力校の小中連携した取組

モデル地域の取組 ～中核教員による取組と継続性

拠点校の公開授業を協力校の中核教員が参観し、授業後には、教員と警察が拠点校である杵形小学校の児童が作成した通学路の安全マップを基に、今後必要な取組について検討を行った。警察からのアドバイスは、各学校が次年度以降の安全教育の内容に反映することとし、継続的な取組を推進できるようにした。

また、交通安全大会における安全標語の取組についても、次年度以降も継続して取り組むこととした。



【中核教員・警察との検討会】



【交通安全標語の展示】

2 実践を振り返って

実践を通して、次の成果及び課題が明らかになった。

(1) 通学路の危険箇所を子ども目線でつくり上げる授業づくり

【成果】

- ・児童が調べたことを地図や文でまとめたことにより、関係機関が地域の人と協力して事故等の防止に努めていることを理解することができた。
- ・作成したマップを比較し、共通点や違いについて考えることで、自分の考えや発見したことを家族や地域の人に伝えることができた。
- ・児童自身が、「地域を守る『地域の人』である」ということを自覚し、見つけた危険を地域に発信することができた。

【課題】

- ・児童に「利尻町は安全である」という認識が強くあり、交通安全に限らず、安全確認についての意識が低い傾向があることから、安全教育を継続して推進する必要がある。
- ・地域の魅力を伝えるパンフレットの一部として、「安全 MAP」を導入するなど、観光客や地域住民の安全意識の向上につながる取組を行う必要がある。

(2) プログラム改定に向けた学校・保護者・地域・行政の連携

【成果】

- ・道路だけではなく、建物や障害物の新たな課題点を整理できた。
- ・多様な課題について、担当部署の所管を明確にすることができた。

【課題】

- ・降雪期の危険箇所は想定できたが、今後は実際に降雪時の点検を行う必要がある。

(3) 持続可能な拠点校と協力校の小中連携した取組の推進

【成果】

- ・交通安全について、子どもと大人の視点の違いを明確にしたことで、同じ場所や状況であっても、異なる見方があることが明らかになった。
- ・中核教員及び警察との検討会を実施したことで、各学校で取り組むべき内容が明確になり、今までの取組に新たな気づきを加えることができた。
- ・児童が主体となって取り組み、発信した内容に大人の視点を加えるなどの取組をしたことにより、交通安全について町内全学校及び町内全地域の住民等が自分事として考える取組とすることができた。

【課題】

- ・本事業をとおして学んだことを生かし、事業終了後も安全教育を継続し、実施内容を状況や環境に応じ、刷新していく必要がある。

(4) 今後の取組について

次年度以降も、今回の取組を踏まえ、交通安全教育の取組を継続していく。また、子どもたちだけに交通安全を求めるだけではなく、大人もルールを守り、安全教育や安全対策を、常にアップデートできるように、利尻町全体で課題解決に向けた取組を充実させていく。

第3学年 社会科学学習指導案

単元名 地域のためにできること	日 時:令和7年11月18日(火)5校時 児 童:男子5名、女子4名 計9名
-------------------------------	---

1、単元の目標

- ・事故や事件から地域の安全を守る働きについて、施設・設備などの配置、警察署による緊急時への備えや対応などに着目して見学したり、地図などの資料で調べたりすることを通して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉えることができる。
- ・関係機関や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して事故などの防止に努めていることを理解する。
- ・主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことをもとに地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることを考える。

2、単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 施設・設備などの配置、警察署による緊急時への備えや対応について見学したり、地図などの資料から必要な情報を読み取ったりするなかで、関係機関や地域の人々の諸活動を理解できる。 ② 調べたことを地図や文などにまとめ、関係機関が地域の人々と協力して事故などの防止に努めていることを理解できる。	① 施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動について考え、表現する。 ② 関係機関の働きを比較・分類することで、相互の関連や従事する人々の働きを考えたり、学習したことをもとに地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることを考えたりすることができる。	① 地域の安全を守る働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決できる。 ② 学習したことをもとに地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることを考えることができる。

3、単元の指導と評価の計画(13時間)

時間	目標	学習活動	知	思	態	評価方法
1	身近な地域の安全について資料を読み取ったり、自分たちの経験をもとに話し合ったりすることを通して、地域の安全を守る働きについて学習問題をつくることができる。	① 警察の働きのダイジェスト動画や資料を見て、日常に隠れている危険について話し合う。 ② 危険に対応する警察の働き、関係機関の働きを予想する。 ③ 事故や事件から地域の安全を守る働きについて学習問題をつくる。			◎	ノート ホワイトボード 行動観察
2	経験や資料をもとに、事故や事件が起きた時に関係機関がどのように連携しているのか理解できる。	① 警察が事故や事件の時にしている仕事について予想する。 ② 教科書の資料をもとに、警察の仕事や関係機関との連携について知る。	◎			ノート ホワイトボード 行動観察
3	経験や資料をもとに、事故や事件がない時警察はどのような仕事をしているのか理解できる。	① 事故や事件がない時の警察の仕事について予想する。 ② 教科書の資料をもとに、警察の仕事について知る。 ③ 警察の仕事の目的について考える。	◎	○		ノート ホワイトボード 行動観察
4	地域の人が安全を守るために行っている取り組みについて調べ、地域ぐるみで安全なまちづくりに努めていることを理解できる。	① 地域の人が安全を守るためにしていることを予想する。 ② 教科書の資料をもとに、地域の人々の安全を守る取り組みについて知る。	◎	○		ノート ホワイトボード 行動観察

5	教科書で学習したことをもとに、自分の地域の警察の仕事の予想し、質問をすることができる。	① 教科書で学習したことを整理する。 ② 利尻の警察とはどのような違いがあるか、共通点はどこかを予想する。 ③ 予想を明らかにするための質問を考える。	○	◎		ホワイトボード 行動観察
6・7	自分の地域の警察の仕事について、見学したりインタビューをしたりして調べ、警察が安全を守るために様々な仕事をしていることを理解することができる。	① 考えた質問をもとに、実際に沓形駐在所を見学する。	◎	○		ワークシート 行動観察
8	安全を守る警察の仕事についてパンフレットにまとめ、様々な人の協力によって地域の安全が守られていることを理解することができる。	① 見学やインタビューを通してわかったことを整理する。 ② 整理したことから、色々な人に知ってほしいことを選び取り、パンフレットにまとめる。	◎	◎	◎	ノート ホワイトボード 行動観察
9	地域の安全を守るために自分たちにできることを考えることができる。	① 教科書の学習や見学・インタビューを通して学んだ地域の取り組みを整理する。 ② 小学生である自分たちにできることを考える。 ③ 自分たちの通学路の交通安全マップを作成するための計画をする。		◎	◎	ノート ホワイトボード 行動観察
10・11	計画をもとに、実際に通学路を歩き、地域の危険箇所を見つけることができる。	① 通学路を歩き、見つけた危険箇所をタブレットやふせんで記録する。		◎	◎	タブレット ふせん 行動観察
12	通学路で見つけた危険箇所について話し合い、交通安全マップにまとめ、自分の生活をふりかかって目標を立てることができる。	① タブレットの写真やふせんをもとに、地域の危険箇所について話し合い、拡大地図を使って交通安全マップを作成する。 ② これからの生活の中で、どんなことに気をつけたいか考える。		◎	◎	拡大地図の記載 行動観察
13 本時	作成した交通安全マップと、地域の大人が作成した交通安全マップを比較し、共通点や違い、その理由について考える中で、家族や地域の人に伝えたいことを見つけることができる。	① 自分たちが作成したマップと地域の大人が作成したマップを比較し、共通点や違いを見つける。 ② どうして子どもと大人で見つけた危険が違うのか、理由を考える。 ③ 安全な地域にするために、家族や地域の人にはどんなことを伝えたいか考える。		◎	◎	ホワイトボード 行動観察 メッセージカード

※この単元のほか、本学級では年間を通じて「パンフレットづくり」を行っている。作成したパンフレットは、作成にあたりインタビューさせていただいた場所に置かせていただきたいと考えている。そのため、交通安全マップをパンフレットのページとすることで、見つけた危険や気をつけてほしいことを地域に発信していきたい。

(表1 本学級児童にとって交通安全アンケート)

【信号のある横断歩道を渡る時、あなたはどのようにしていますか。】

項目
信号が青でも、左右をよく見て、安全をたしかめてからわたる。
信号が青でも、時々左右を見なかったり、安全をたしかめないで渡ったりする。
信号が青なので、なにも気にしないで渡る。

【信号のない横断歩道を渡る時、あなたはどのようにしていますか。】

項目
手を挙げて、車が止まったのを確かめてから、左右をよく見てわたる。
手を挙げたら車は止まってくれるので、そのまま左右をよく見ないでわたる。
横断歩道なので、なにも気にしないで渡る。

【横断歩道を渡る前に信号が点滅したら、あなたはどのようにしていますか。】

項目
渡らない。
時々渡る。
気にしないで渡る。

【自転車で横断歩道を渡る時、あなたはどのようにしていますか。】

項目
自転車を押して渡る。
時々押して渡る。
自転車に乗ったまま渡る。
自転車を持っていない。乗らない。

【歩いたり自転車に乗ったりしている時、あなたは周りの歩行者や車の動きを気にしていますか。】

項目
気にしている。
少しだけ気にしている。
気にしていない。

5、北海道実践的安全モデル構築事業を受けての本校の取組

① 春の交通安全運動に伴う街頭指導・下校指導
② 交通安全教室の実施
③ 通学路安全点検の実施
④ 通学路安全マップの作成
⑤ 交通安全に関わる公開授業の開催
⑥ 交通安全アンケートによる実態把握

6、本時の展開(13/13)

過程	段階	○学習活動 ◎発問(指示) ・予想される児童の発言	○支援 □評価
導入 5分	問題提示 (きづく) 3分	○前時について、マップと数枚の写真をもとに振り返る。 ・沓形の町には路上駐車で道が狭いところがあったね。 ・横断歩道が消えているところもあったね。 ・歩道がないから、車には気をつけて歩かないといけないよ。	○特に児童が注目していた写真に絞って提示する。
	課題把握 (つかむ) 2分	○大人が作成した危険箇所マップを提示する。 ・あ、僕たちが見つけたところだ！ ・意外と少ないな。 ・私たちがつけたところとは違うところもあるね。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 課題 「同じところや違うところを見つけて、地域の人に知らせたいことを考えよう。」 </div>	○比較しやすいように、横並びで提示する。
展開 30分	解決努力 (とく)	◎チームで同じところと違うところを見つける。 ・歩道や横断歩道が消えているところはどっちも見つけたね。 ・路上駐車や電柱については、大人は見つけていないね。 ◎どうして大人と子どもでは見つけたものは違うのかな。 ・大人と子どもでは目線の高さが違うからかも。 ・毎日歩いているのと、たまに通るのでは違う。 ・大人は車が多いけど、子どもは歩いていることが多いからかな。 ・見に行った時間にもよるのかもしれないよ。 ◎見つけた違いから、地域の人にも知ってほしいことをメッセージカードに書こう。 ・路上駐車は道が狭くなって危ないからやめてね。 ・私たちが周りをよく見て歩くようにするね。 ・あの坂道はお互いに見えにくいから気をつけようね。	○実際に児童がマップを見比べることができるよう、黒板前を広く開ける。 □違いやその理由探しでわかったことをもとに、伝えたいことをカードに書くことができる。(思・判・表)
まとめ 5分 ふりかえり 5分	定着 (わかる)	◎地域を安全に保つには誰がどんなことに気をつければいいかな。 ・子どもは周りをよく見て歩かないといけないし、大人もルールを守らないといけないね。 ・自分が車に乗っているときも、家族に気をつけることを教えてあげよう。	○発問をきっかけに、子どもと大人両方が「地域の人」としてルールや周囲に気をつけることが大切だと気付けるようにする。
	習熟・応用 (もつとわかる)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> まとめ 子どもも大人も、誰もがルールを守り、お互いに気をつけることで、地域の安全を守ることができる。 </div>	
	評価 (ふりかえる)	◎安全マップに取り組んでみて、どんなことを感じましたか。 ・安全な地域だけど、危ない場所はあるからみんなで気をつけないといけないね。 ・自分達にもできることがあって、嬉しかったし楽しかったね。	○「楽しかった」で終始せず、「わかったこと」「がんばったこと」「知りたいこと」「やってみたいこと」や理由をしっかりと話せるように問い返す。

7、板書計画

④ 同じところや違うところを見つけて、地域の人に知らせたいことを考えよう。

まとめ
子どもも大人も、誰もがルールを守り、お互いに気をつけることで、地域の安全を守ることができる。

児童が作成したマップ

児童が書いた
ホワイトボード

大人が作成したマップ

どうして見つけた場所がちがうの？
・時間
・せの高さ

防災教育

～ モデル地域 苫前町 ～

1 実践的安全教育モデル（防災教育）

(1) モデル地域について

苫前町は日本海沿岸部に位置しており、地震が発生した場合、津波被害の危険性がある。

拠点校である苫前中学校は地域内で指定緊急避難場所に位置付けられており、地震による津波災害が発生した際には、町内において最大の収容人数が想定され、学校種を超えた災害対応が求められることや、学校独自に冬期間を想定した避難訓練を実施するなど、安全意識の向上に尽力してきた。

本事業を通じて、モデル地域内の全ての学校が連携して実践を進め、学校安全を推進するための中核となる教員を位置付け、災害安全教育に関する取組の推進を牽引させることにより、児童生徒の防災意識を高めるとともに、安全に関する資質・能力を育むため、今年度は、関係機関及び保護者と連携した「1日防災学校」や危機管理マニュアルの改善に取り組み、防災教育の充実を図った。

これまでの取組を踏まえ、3つのポイントを次のとおり示す。

(2) 実践的安全教育モデルのポイント

【モデルPOINT①】指導方法や教育手法の開発・普及

○防災マップの改善に向けた「マイ・タイムライン」の作成・発表

モデル地域の取組 ～地域や関係機関と連携した防災学習

拠点校では、「マイ・タイムラインの作成や地域や学校の避難経路を確認・再考することで、安全に避難するための判断力と行動力を高める」ための学習活動を設定し、居住地域ごとにグループになり、1つの状況下における避難の仕方について話し合いを通して考えを深めた。

「1日防災学校」において作成物を用いた発表を行い、学校安全アドバイザーである佐藤悦信氏から質問や講評をいただき、今後、避難の実効性を高めるための取組など新たな気づきを得た。



【「マイ・タイムライン」発表の様子】



【アドバイザーからの講評の様子】

2 実践を振り返って

実践を通して、次の成果及び課題が明らかになった。

(1) 防災マップの改善に向けた「マイ・タイムライン」の作成・発表

【成果】

- ・マイ・タイムラインの作成や発表を通じて、居住地の防災情報を「知る」、どのように行動するか「考える」、他者の意見を参考に自分自身に置き換えて「気付く」など、防災意識の向上及び防災行動への理解が深まった。

【課題】

- ・生徒一人一人が、進行型災害が発生した際に、「いつ」「何をするのか」を整理した防災計画（マイ・タイムライン）をもち、生徒が家庭に持ち帰って家族と一緒に作成するなど、確実な防災行動につなげるための取組を継続する必要がある。

(2) 「1日防災学校」による安全確保体制の構築

【成果】

- ・自分を主人公とした災害時の物語を作成する「防災小説」の取組を通して、災害に遭遇することを「自分事」として捉え、防災意識が向上するとともに、他の生徒の作品を交流することで、新たな気付きや発見につながり、災害時のリスクや備えなど防災行動の理解が深まった。
- ・今回、けが人や車椅子利用者を想定した避難や保護者への引き渡しシミュレーション、避難所開設時の段ボールベッドの組立などの実践的な訓練を行ったことにより、今後の具体的な改善方策への契機になったとともに、学校・地域・行政が連携した防災教育の基盤を構築できた。

【課題】

- ・様々な状況へ対応可能な保護者への引き渡し体制及び確認方法を改善し、避難訓練の実効性を高める必要がある。
- ・学校・地域・行政の連携の深化に向けて、各取組の共有や普及啓発、防災の取組を継続的に行う体制を確立する必要がある。

(3) 危機管理マニュアルの改善

【成果】

- ・家庭用の緊急時対応リーフレットを作成し、学校と保護者が共通認識をもち備えや対応ができるようにするとともに、防災連絡票の様式を町内の小・中学校で統一することでスムーズな活用につなげ、学校間連携の取組の充実を図ることができた。

【課題】

- ・地震・津波以外の災害等や想定される危機事象に係る危機管理マニュアルの充実に向けた評価・見直しを計画的に進めていく必要がある。

(4) 今後の取組について

災害から児童生徒等の命を確実に守るため、学校運営協議会を中心とした協働体制を構築し、保護者や地域が連携して、取組成果やその後の取組状況

について各種会議での共有及び町内全体に普及啓発するとともに、学校安全計画や危機管理マニュアル等の充実を図り、継続して取り組んでいく体制を確立していきたい。

「地域や関係機関と連携した防災学習」

(防災マップ：「避難経路を考えて安全に避難するには」) 指導案

日 時：令和7年11月20日(木) 10:40~11:40

会 場：苫前地区コミュニティセンター 1F 多目的室

1 目標

マイ・タイムラインの作成や地域や学校の避難経路を確認・再考することで、安全に避難するための判断力と行動力を高める。

2 評価の観点

観点	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の視点	・災害時の避難に関する基礎的な知識を理解しているか。	・安全な避難のための経路を考え、根拠をもって説明できるか。	・他者と協力しながら防災について考えようとしているか。
評価規準	・避難場所・経路・危険箇所を正しく把握している。	・危険箇所をあげ、改善策を提案している。	・グループ内で意見交換や役割分担を積極的に行おうとしている。

3 生徒の実態

事前に実施したアンケートでは、以下のような結果となった。(2025年10月27日実施)

(1) 学校の避難訓練に、真剣に参加していますか。 A. している B. ややしている C. あまりしていない D. していない
(2) 「苫前町防災マップ」を知っていますか。 A. 知っている B. 知らない
(3) 防災について家族で話したことはありますか。 A. よくある B. たまにある C. あまりない D. ない
(4) 地震や津波について、知っていることはありますか。 A. よく知っている B. 知っている C. あまり知らない D. 知らない
(5) 家から避難所までに考えられる危険と避難経路を知っていますか。 A. 知っている B. 知らない
(6) 家にいるときに災害がおきた場合、避難所までの避難経路を知っていますか。 A. 知っている B. 知らない
(7) 家にいるときに災害がおきた場合に持ち出す非常持ち出し品を用意していますか。 A. 用意している B. 用意していない
(8) 災害がおきたときは、助け合いや心配りが大切だと思いますか。 A. とてもそう思う B. 思う C. あまりそう思わない D. 思わない
(9) 災害がおきたときは、避難所の運営やボランティア活動などに参加したいと思いますか。 A. とてもそう思う B. 思う C. あまりそう思わない D. 思わない

4 学習の流れ

(1) 事前学習

時間	学習活動	教師の動き	備考
5	1 本時の活動を知る ・防災教室の目的を聞く。 ・「避難経路を考えて安全に避難するには？」をテーマに考える。 ・居住地域ごとのグループをつくり、役割を確認する（リーダー・記録・地図記入・発表など）。	・防災教室の趣旨を説明する。 ・グループ分けと役割の確認を行う。	
25	2 マイ・タイムラインの作成 ・学校・地域の地図を見ながら、災害（地震・津波・火災など）ごとにマイ・タイムラインや避難経路を考える。（ワークシートへ記入） ・危険箇所や改善点を話し合う。 ・拡大用紙に「マイ・タイムライン」と「避難経路マップ」をまとめる。	・地図資料や避難所位置の確認を支援する。 ・グループを巡回し、話し合いの方向性を助言する。	・災害の種類に応じた危険箇所（崩れやすい場所、狭い道、海岸近くなど）を意識させる。 ・実際の地図を使い、現実的な避難経路を意識させる。
15	3 作成物の発表（練習） ・各グループ4分程度で発表し、3分程度の質疑応答をおこなう。 ・「安全に避難する工夫」「気づいた危険箇所」「改善案」を中心に説明する。 ・他グループの発表を聞き、質問・感想を述べる。	・発表の順番と時間を調整する。 ・発表時に焦点（工夫・危険箇所・改善策）を確認する。 ・質問や感想を促す。	・質問・感想を通して他グループの工夫を学び合う。 ・発表では安全意識と地域連携の重要性を確認し合う。
5	4 振り返り ・印象に残った取組や気づきを共有する。 ・振り返りを記入する。	・代表グループを指名し発表を促す。 ・「地域で協力して命を守る」ことの大切さを強調する。	・家庭での話し合いにつながるよう、「家族と避難経路を確認してみよう」と呼びかける。

(2) 本時

時間	学習活動	教師の動き	備考
5	1 本時の活動を知る ・防災教室の目的を聞く。 ・「避難経路を考えて安全に避難するには？」をテーマに考える。	・防災教室の趣旨を説明する。 ・中学生の発表に対して自分事としてとらえ、発表後の質問を積極的に行ってほしいことを伝える。	・質問、意見を出せる雰囲気づくりを重視する。
35	2 作成物の発表 ・各グループ4～6分程度で発表し質疑応答を行う。	・発表の順番と時間を調整する。	・質問・感想を通して他グループの工夫を学び合う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「安全に避難する工夫」「気づいた危険箇所」「改善案」を中心に説明する。 ・他グループの発表を聞き、質問・感想を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表時に焦点（工夫・危険箇所・改善策）を確認する。 ・質問や感想を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表では安全意識と地域連携の重要性を確認し合う。
5	<p>3 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印象に残った取組や気づきを共有する。 ・感想を一言ずつ述べる。 ・振り返りを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・代表グループを指名し発表を促す。 ・学校安全アドバイザーによる講評 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での話し合いにつながるよう、「家族と避難経路を確認してみよう」と呼びかける。 ・講評では「自分や家族の命を守るために、地域で支え合う」姿勢を強調していただく。

5 指導形態

- (1) 各学年の居住地域ごとにグループをつくる。
- (2) 事前学習で発表時の順番や発表の流れ、担当を決めておく。

居住地区	1年	2年	3年
苫前地区	9名	13名	11名
古丹別地区	9名	7名	11名

6 準備物

- (1) マイ・タイムライン作成用のワークシート
マイ・タイムライン記入欄、学校周辺・通学路・避難所を記した地図、振り返り欄を掲載
- (2) 発表用の用紙（（1）を拡大印刷したもの）、マーカーなど

講評

講 評

【防犯教育】

学校安全アドバイザー：株式会社まちづくり計画設計 取締役 松村 博文 氏

1 取組全体について

- 様似町の防犯の取組は、これまでの安全教育モデルの中で大変優れたものである。具体的に次の4点を示す。

2 取組の成果について

- 1つ目は、防犯教育に小・中学校に加え、高等学校が一体となって取り組んだことである。異なった校種が連携した取組を行うことは簡単ではないが、様似町教育委員会が、町の各校種をまとめることができる強みを生かして、安全教育に取り組んだことにより町全体の取組とすることができたことは大きい。
- 2つ目は、防犯訓練を警察と連携し、学校の先生が数名で犯人役を行い、リアリティのある訓練を行うことにより、防犯上の弱点を見いだすことができていたことである。訓練で発見した弱点については、危機管理マニュアル見直しの際に改善していくことが有効である。
- 3つ目は、地域住民と連携して見守り活動や安全マップを作成するなど、地域と積極的に関わっていたことである。安全マップを作成の際には、地域住民の協力により町全体をカバーするマップができていた。また、学校と保護者だけで安全教育を行うことには限界があるため、地域の方々の協力を得ることは必要不可欠である。地域の方々も地域に貢献できることを模索している中で、子どもたちの安全を守るというやりがいのある取組をできることは、地域づくりにおいても意義のあることである。今後は、安全マップを使って、通学時等における見守り隊の配置や子供110番の再配置などに生かし、成果を示すことがよい。

様似町は防犯上安全な地域であるが、その価値を認識すべきである。アメリカでは毎年30万人以上、1日に1,000人近くの子どもが行方不明になっている。日本は諸外国に比べて安全な国であるが、それ自体に価値がある。

小さい町ほど小回りがきくという利点を活かして今後、防犯教育について取り組んでいくとよい。

【交通安全教育】

学校安全アドバイザー：北海道道路管理技術センター 顧問 萩原 亨 氏

1 取組全体について

○利尻町の交通安全の取組は、子どもの交通安全意識が向上する具体的な成果があり非常によかった。通学路の危険箇所の発見、対策に子どもの目線からの危険箇所の意見を取り入れていた。私が意見交換に参加した際にも、地域の方が積極的に参加され、「ここはこう危ない！そこはこうだ！」など意見をたくさん出され、非常に熱心に交通安全について討論されていたのが印象に残っている。

2 取組の成果と課題について

○成果：通学路の危険箇所を探す際に、大人が目線からの危険箇所と、子どもの目線からの危険箇所を比較した。その結果、大人が目線からの危険箇所にはなかった路側の背の高い雑草があった。子どもから、背の高い雑草で見通しが悪く危険とする指摘があった。意見交換後、路側の草刈りを地域が行った。子どもたちからの意見が具体化されたことは、子どもたちの交通安全意識に繋がるすばらしい成果と言えた。

○課題：利尻町で交通事故は起きない、という思い込みが意見交換時に感じられた。常に交通事故の危険はあるという意識を、大人がもつことが重要であり、事故を防ぐことにつながる。今後も交通事故についての意見交換会を継続してほしい。

○これまでの取り組み：これまで、利尻町では、ヘルメットを小学校1年生から中学校3年生まで子どもたちに貸与してきた。小学校からの貸与が、中学生の自転車乗車時のヘルメット着用につながっていた。全道的にも中学生が抵抗なくヘルメットを着用していることは珍しく、素晴らしい取組と言えた。ぜひ、全道に小学生から子どもたちにヘルメットを貸与することのメリットをPRしてほしい。

【防災教育】

学校安全アドバイザー：北海道教育大学釧路校 教授 境 智洋 氏

1 取組全体について

- 苫前町は地震の少ない地域であるが、地震災害は起きる可能性があり、災害に対する取組を実施したことは、とても意義がある。苫前町の取組の成果のうち、3つ取り上げる。

2 取組の成果と課題について

- 1つ目は、実践的な避難訓練を実施していることである。一般的な避難訓練は、放送が入り、廊下を静かに歩いて避難場所まで移動するという状況にある。苫前中学校の避難訓練は、怪我をした生徒や掲示物が落下した状況を想定・想像し、より実践的な避難訓練となっていたことは大きな成果である。
- 2つ目は、生徒が災害を自分事として捉えて取り組んでいたことである。生徒一人一人が、「防災タイムラインをつくろう」や「防災小説を書こう」に主体的に取り組んでいた。この取組を次年度以降も継続していくことが重要である。
- 3つ目は、「次につながる取組」を実践していることである。苫前町は、昨年度の実践モデルである浜中町の取組を参考にしていた。今後は、次年度の取組として、前年度の取組を参考にするなど継続性があるものになると、効果的である。課題としては、苫前町として防災教育を継続するシステム作りをしていくことであるが、浜中町は本年度4月に実践委員会を開催し、昨年度と同様の取組を継続実施している。苫前町は、本取組で使用した教材・教具、コンテンツ等を各校で共有し、活用していくことが重要である。

学校安全アドバイザー：気象庁旭川地方気象台 地震津波防災官 佐藤 悦信 氏

1 取組の成果について

- 今年度の苫前町の地震津波防災への取組は、「1日防災学校」におけるマイタイムライン発表や「防災小説を書こう」の授業から、生徒一人一人が地震津波災害を“我が事”として捉え、命を守るために何をすべきかを真剣に考え取り組んだことが感じられました。生徒の防災意識は確実に向上し防災行動への理解も深まり、また本事業に携わってきた先生方の防災意識も高揚し、たいへん効果的であったと思います。

2 取組の課題について

- 地震津波に関する防災教育は、単年度の取組みでは効果が薄いと考えます。学校における子どもたちの取組みに家族を巻き込み家庭内で検討し、更には地域に広げ皆が津波から命を守るために意識をあわせることが重要です。そのためには我々大人が子どもたちに道筋を付けて取組みやすくすることと、今後も取組を継続していくことが必要です。

令和7年度北海道実践的安全教育モデル構築推進委員会名簿

1 学校安全アドバイザー

No	所 属	職	氏 名	分科会
1	株式会社まちづくり計画設計	取締役	松村 博文	防犯
2	一般財団法人北海道道路管理技術センター	顧問	萩原 亨	交通
3	北海道教育大学釧路校	教授	境 智洋	防災
4	気象庁旭川地方气象台	地震津波防災官	佐藤 悦信	防災

2 構成員

No	所 属	職	氏 名	分科会
5	北海道PTA連合会	副会長	南川 達彦	防犯
6	公益財団法人北海道防犯協会連合会	総務部長	井口 りえ子	防犯
7	北海道環境生活部くらし安全局地域安全課	主幹（安全安心）	渡辺 諒	防犯
8	北海道警察本部生活安全部生活安全企画課	課長補佐	浜島 美輝	防犯
9	国土交通省北海道開発局建設部道路維持課	道路防災専門官	圓子 大雄	交通
10	北海道環境生活部くらし安全局地域安全課	課長補佐（交通安全）	小野寺 努	交通
11	北海道建設部土木局道路課	課長補佐	菊池 俊	交通
12	北海道警察本部交通部交通企画課	課長補佐（安全対策）	葛西 直人	交通
13	気象庁札幌管区气象台気象防災部地域防災推進課	リスクコミュニケーション 推進官	伊藤 公浩	防災
14	国土交通省北海道開発局事業振興部防災課	上席専門官	辻 和郎	防災
15	北海道総務部危機対策局危機対策課	課長補佐（防災教育・避難）	上野 奈美	防災
16	様似町教育委員会	生涯学習課 課長補佐	西嶋 賢裕	防犯
17	利尻町教育委員会	教育課長	関根 智敏	交通
18	苫前町教育委員会	こども教育課 こども教育係長	長野 陽一	防災
19	北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課	課長	森田 靖史	-
20	北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課	課長補佐	青山 裕之	-

北海道実践的安全教育モデル構築事業

安全教育モデル

～学校における安全教育・安全管理の充実に向けて～

令和8年（2026年）2月

編集・発行 北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課

札幌市中央区北3条西7丁目

011-231-4111
